

	1	2
実施団体名	アジア農村協カネットワーク岡山	特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
学習プラン名	世界のお米料理食べてみよう 何が同じで何が違う？	世界の多様性と格差から SDGs を学ぼう —「誰一人取り残さない」世界の実現に向けて 今、私たちが知るべきことやるべきこと—
主なテーマ	異文化理解、多文化共生	国際協力、国際理解、多文化共生
時限数	3 時限	2 時限
対象学年	小学校（5 年生以上）・中学校・高校	小学校（5 年生以上）・中学校
1 回あたりの対象人数	30 名程度	体験的に学ぶアクティビティを含める場合 20～50 名程度 （含めない場合、それ以上でも可）
学習のねらい及び期待される成果	<p>食事を実際に試食してみて、その国の食習慣を体験する。また農業のシステムからその国の地形や気候など、様々な様子を学ぶ。</p> <p>日本と同じところと異なるところを、食を通じて理解し、多文化共生について理解を深める。</p>	<p>SDGs は私たちの日常生活と密接に関係しており、自分や教室の中とも世界はつながっている、ということに気づいてもらうのがねらい。シミュレーション等を通じて、世界の多様性やそこに存在する格差を体験的に学び、遠い世界のことをより身近に感じてもらう。</p> <p>また、世界の現状について理解を深めるだけでなく、国際社会の一員として自分ができることは何かを考え、行動に移すことができるよう促す。</p>
主な実施内容	<p>[1 時限目] アジアなどの稲作の国の食と農の解説</p> <p>[2 時限目] 調理実習</p> <p>[3 時限目] 試食</p> <p>調理実習献立（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チキンライス（シンガポールなど） ・ フィッシュカレー（バングラデシュ） ・ カオパット（タイ） ・ パエリア（スペイン） ・ ライスパーパーやフォーなどお米の加工品（ベトナムなど） <p>※内容、品目などは人数などで調整します。 ※1 学年のクラス数が多い学校など、調理実習が難しい場合には、座学のみでの対応も可能です。</p>	<p>[1 時限目] シミュレーションや教材を使用し、世界の多様性やそこに存在する格差とその影響を、背景と合わせて体験的に学ぶ。それにより、自分や教室の中とも世界はつながっている、という気づきを促す。</p> <p>（1） 講師の自己紹介とゲームの導入 <10 分> （2） シミュレーションゲーム <35-40 分> ゲームでは、各自に配布された「役割カード」に書かれた情報（性別、年齢、地域、栄養状況、言語、挨拶の言葉、文字）に従って動き、人口の偏りや言語、文化、教育レベル、所得などが国や地域によって違うことを疑似体験する。</p> <p>[2 時限目] シミュレーションを振り返り、各自の気づきや感じたことを共有する。また、多様性や格差の具体的な事例として、当機構が活動する国の状況や、問題解決への取り組みを紹介し、理解を深める。</p> <p>（1） シミュレーションの振り返り <10 分> （2） 当機構が活動している国の状況などを紹介する <10 分> （3） 課題をグループで話し合い、できることを考える <15 分> （4） SDGs の目標達成に向けた当機構の取り組みを紹介しながら、学習全体のまとめを行う <10-15 分></p>
学校が準備しなければならない機材・設備	調理実習室、プロジェクター、調理実習で使用する食材の一部	プロジェクター、スクリーン（パワーポイント使用）、マイク、人数に応じたアクティビティが行えるスペース
講師派遣予定人数	1 名	延べ 2 人（1、2 時限 各 1 名）
連絡先	TEL : 080-5236-2309 E-mail : tsutomukobayashi200641@yahoo.co.jp	TEL : 086-232-8815 E-mail : tomioka_hiroko@amda-minds.org

	3	4
実施団体名	岡山青年国際交流会	NPO 法人岡山日本語センター
学習プラン名	Appreciating differences —ちがいを理解し、受け入れるために—	お互いの言葉や文化を尊重して、 多文化共生社会を考えよう
主なテーマ	国際理解、多文化共生	異文化理解、多文化共生
時限数	2 時限	2～3 時限
対象学年	中学校・高校	小学校・中学校・高校
1 回あたりの対象人数	1 クラス（10-45 名程度）	人数制限はありません
学習のねらい及び 期待される成果	岡山青年国際交流会は、「多文化共生社会」とはお互いの文化を尊重し合う社会であると考え、その価値観をより多くの人と共に学ぶことを大切にしている。本プランは、異なる文化をもつ人を未知の存在として拒絶するのではなく、共に生きる隣人として受容する姿勢を育てることを主目的とする。加えて、誰でも暮らしやすい社会づくりについて考えるきっかけをつくること、ならびに、岡山県在住の中高生と外国人との交流促進の素地を築くことを目指す。 なお、これらの一連の活動は、道徳や総合的な学習の時間、社会の授業と関連づけた形で実施することが可能である。	学習のねらい：同じ地球上に住む人間どうしには類似点も相違点もあるということ、言葉が通じ難くても、相手の目を見て傾聴すればコミュニケーションができるということを経験から理解する。 期待される成果：お互いの言葉や文化を尊重し、相手の話を傾聴し、自分の伝えたいことを言葉で表すことによって、外国人と積極的にコミュニケーションをしようという意欲が生まれること。
主な実施内容	<p>[1 時限目]</p> <p><u>私の慣習</u> 選択肢を用意し、挙手制で、生徒が日々の暮らしの中で宗教に関する慣習にどの程度触れているかを把握する。</p> <p><u>国旗で仲間分け（アイスブレイク）</u> イスラム教徒が多い国の国旗でグループ分けをする。</p> <p><u>ムスリムクイズ（クイズ）</u> イスラム文化・慣習に関するクイズにグループ対抗で回答する。（食習慣、礼拝、断食月、ジェンダーについてなど）</p> <p>[2 時限目]</p> <p><u>メッセージから読み取ろう（ディスカッション）</u> イスラム教徒が日常的に直面する問題について記されたメッセージカードを読み、「直面している問題は何か」「自分がその人の立場だったらどのような気持ちになるか」「なぜそのような気持ちになると思うか」の 3 点を議論する。</p> <p><u>私たちにできること（ディスカッション／発表）</u> 「メッセージから読み取ろう」で取り上げられた問題を解消するために、岡山県内でどのような取り組みができるかについてアイデアを出し、各グループから発表する。</p> <p><u>まとめ</u> 各グループからの発表を振り返ったうえで、岡山県内でイスラム教徒に対して、すでにどのような取り組みが行われているかを紹介する。</p>	<p>[1 時限目] <u>世界の文化と繋がろう</u></p> <p>① 教室の机に並べた外国の日用品、玩具、先住民の工芸品等を各々手に取って、実際に使ってみる。 ② 世界の文化の違いや繋がりを一緒に考える。 ③ 40 年前に当団体が岡山で最初の日本語教室を開設した理由と現在の外国人の様子と日本語教室について学び、多文化共生社会には何が必要か考える。</p> <p>[2 時限目] <u>コミュニケーションについて考えよう</u></p> <p>① 外国人ゲストの自己紹介 ② 相手の言葉をよく聞くことや、わかり難い時でも根気よく分かり易い話し方を考えることを観察してもらう。 ③ 文化と言葉の繋がりと多文化共生社会で大切なコミュニケーションについてみんなで考える。</p> <p>[3 時限目] <u>日本以外の文化を持つゲストと話し合う</u> グループに分かれて、各ゲストの国、地域、言葉、岡山の感想などを、ゲストの目を見ながら日本語で尋ね、質問されたことには分かり易く答えて話し合う。言葉が通じにくい時にはどうしたら良いかも考える。</p>
学校が準備しなければならない機材・設備	プロジェクター、延長コード、スクリーン、スピーカー（HDMI 接続できない場合）、マイク	地球儀、外国の物を置く机
講師派遣予定人数	6 名	6 名（日本人 2 名、外国人 4 名）
連絡先	E-mail : okayama.iyeo.iyeo@gmail.com	TEL : 090-6400-6022 E-mail : ojc@diary.ocn.ne.jp

	5	6
実施団体名	岡山ユニセフ協会	青年海外協力隊岡山県OV会
学習プラン名	考えてみよう 世界と自分のこと	来て見て知って！国際支援ボランティア
主なテーマ	異文化理解・国際協力・多文化共生	国際協力・国際貢献
時限数	1～2 時限	1～2 時限
対象学年	小学校・中学校・高校	小学校・中学校・高校
1回あたりの対象人数	応相談	応相談
学習のねらい及び期待される成果	<p>① 国際協力を通して、多様性と相互尊重について理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニセフの活動を通して世界の現状を知り、よりよい世界について自分とつなげて考えることができる。 普段、あまり考えることのない「世界の子どもたち」の生活について知り、多様性への理解を深める。 <p>② SDGsについて理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の課題やSDGsについて理解し、「自分ごと」として感じる。 	<p>日本政府が行っているODAの国際協力・国際貢献事業に参加してきたJICA海外協力隊の経験者に、開発途上国のそれぞれの国々で宗教や価値観、肌の色、生活様式、文化等の違いや、言葉の壁を感じながら現地の人々と同じ生活目線で活動してきた話を聞くことで、多様な世界を感じてもらう。さらに、世界に向けて視野を広げることで、いろいろな国々の人々とどういった形で寄り添うことができるかを考える機会を提供したい。持続可能な多文化共生社会への気づきを学んで貰いたい。</p>
主な実施内容	<p>[1 時限目]</p> <p>① ユニセフの活動と世界の子どもたちの現状について知る。</p> <p>② 水がめ運びや蚊帳体験、動画などを通して理解を深める。</p> <p>[2 時限目]</p> <p>① ワークショップを通して世界の現状を体感する。</p> <p>② 世界の子どもたちにとって大切なこと、自分たちにとって大切なことについて話し合う。</p> <p>※内容については、ご希望も伺いつつ、柔軟に対応可能です。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なチョコレートやファッション、児童労働の問題やSDGsについて考える参加型授業 ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」を通じて世界の多様性と課題を考える授業 その他、ご相談ください。 	<p>JICA海外協力隊経験者の赴任先での活動内容や体験談</p> <p>※講義内容や実施日等の希望を伺い、候補者の中から講師を派遣します。 ※講師によって、講演・ワークショップ等 実施形式も相談可。</p> <p>(講師例)</p> <p>派遣先 アジア地域・アフリカ地域・大洋州地域・中南米地域・欧州地域・中東地域</p> <p>分野別</p> <p>①人的資源：小学校教育・理数科教育・環境教育・青少年活動・スポーツ教育（柔道、体育等）</p> <p>②保険・医療</p> <p>③社会福祉</p> <p>④農林業</p> <p>⑤商業・観光</p> <p>⑥エネルギー</p> <p>⑦計画・行政</p> <p>⑧公共・公益事業</p> <p>⑨鉱工業</p>
学校が準備しなければならない機材・設備	PC、プロジェクター、スピーカー、スクリーン	講師によりプロジェクター、スクリーンなど
講師派遣予定人数	2名	1名
連絡先	TEL：086-227-1889 E-mail：okayamaunicef@gmail.com	TEL：090-7995-2267 E-mail：hurry.kondoh@gmail.com

	7
実施団体名	ダフェプロジェクト
学習プラン名	岡山で多文化共生を考えてみよう
主なテーマ	国際理解、多文化共生
時限数	2 時限
対象学年	小学校（4 年生以上）・中学校・高校
1 回あたりの対象人数	40 名程度
学習のねらい及び期待される成果	<p>岡山に住む外国にルーツのある人たちの国のことを知る。 同じ地域に住む仲間として認識しあう。 身近なところから国際理解・多文化共生への関心を持つ。</p>
主な実施内容	<p>[1 時限目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山の現状を知る （在岡外国人の統計や多言語の行政サービスなどがどうなっているのかを見てみよう。） ・ 留学生等の国を知る （自国での生活、文化習慣などを教えてもらおう。同時に日本での生活も聞いてみよう。） <p>[2 時限目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加型ワークショップ （グループに分かれて留学生等とおしゃべりをしてみよう。いろんなことを聞いてみよう。）
学校が準備しなければならない機材・設備	プロジェクター、スクリーン
講師派遣予定人数	3 名
連絡先	TEL : 086-238-8320 E-mail : danfeproject2998@gmail.com